



HMCは、思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等にわたる人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者による部局横断的な新たな研究協創のプラットフォームを目指しています。

10

2025 Summer



# Humanities Center News Letters

オープンヒューマニティーズ基金  
協働研究・公募研究活動報告  
イベント実施報告  
新刊紹介

## ヒューマニティーズセンター（HMC）とは

人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者により、部局横断的に新たな研究協創のプラットフォームを目指す連携研究機構。

その対象は思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等、広範に及びます。



### Ushioda Humanities Initiative (潮田ヒューマニティーズイニシアティブ)

潮田洋一郎氏の財政的支援によりHMCで展開される、新たな国際人文研究拠点。連携研究者はフェロー（兼務教員）としてHMCに所属。

### Humanities Liaison (ヒューマニティーズリエゾン)

研究支援人材（URA）を配置し、既存の枠組みを脱してより広範に研究活動を展開していくことを目指します。

**公募研究：**個人研究者の海外連携等を支援  
**協働研究：**部局横断型の研究を推進



オープンセミナー、リエゾントーク、  
ブックレットを通じて、研究成果を発信



ヒューマニティーズセンター  
Humanities Center

ロゴの四角形は「情報」を表しています。また濃色のオレンジの四角形は「熟成した知識」を示します。各連携部局が連なり、情報を共有しながら、熟成した知識をHMCへ集約させるという理念を表現しています。

# 《社会と未来を開くオープンヒューマニティーズ基金》

— 人間とは何か、ともに考えるために —

オープンヒューマニティーズ基金は、新たなヒューマニティーズの問いと実践の場に、みなさんにも加わっていただきたいという思いから生まれました。私たちの目指すヒューマニティーズの活動を、研究者だけのものにせず、社会の共有物として有効に活かすために、みなさんのお力をぜひお借りしたいのです。



HMCの活動は、学内外の研究者コミュニティのみならず、社会の様々な人々をつなぐプラットフォームとして新しい役割を果たしつつあります。社会とのつながりを重視するパブリックヒューマニティーズは国外では注目を浴びつつあるように、社会との関わりはヒューマニティーズにとって本質的な課題であるといえます。

寄付をきっかけに、単なる資金援助ではなく、ヒューマニティーズというプラットフォームへの参加を意味するという側面を重視し、社会に開かれたヒューマニティーズの構築の実現に向けて、皆様より温かいご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

特典

HMC フェロー懇談会ご招待

オープンセミナーとリエゾントークのアーカイブ動画ご視聴\*

通常は入手できない HMC ブックレット冊子

HMC グッズ（ノート、ペン等）

\*権利保護のため非公開部分が含まれる場合があります

詳細は、こちらのWebサイトをご覧ください



## 協働研究



HMCの立案により、3～4年で行う協働研究。個人研究の「公募研究A」、これまでの「企画研究」、リエゾン部門で行っていた「アジアの未来」研究プロジェクトを継続発展させ、現在は、下記の研究が実施されています。協働研究では、メンバーに学内外の研究協力者や博士課程所属の研究補助者が加わっていることも特色のひとつ。これには学内外のリエゾンを目指すHMCスタッフの思いが込められています。名称こそ協力者、補助者ですが、プロジェクトに欠かせない主力メンバーとして活躍しています。

※過去の企画研究の報告書は、HMCのウェブサイトからご覧いただけます。

### 現代作家アーカイヴの構築と発信

研究代表：武田 将明（総合文化研究科）

研究分担者：阿部 公彦（人文社会系研究科）、阿部 賢一（人文社会系研究科）

中島 隆博（東洋文化研究所）、村上 克尚（総合文化研究科）

逆井 聡人（総合文化研究科）、中里 晋三（HMC特任研究員）

本企画は、国内外の多くの人々に現代の日本語文学の意義を伝えることを目的として、現役の作家の生の声を記録（アーカイヴ）に残すものです。アーカイヴの制作は2015年に始まり、高橋源一郎、古井由吉、瀬戸内寂聴、筒井康隆、小川洋子、川上弘美など、現代を代表する書き手のインタビューを収録・配信してきました（HMCによる助成は2018年～）。飯田橋文学会（作家の平野啓一郎氏を中心とする、作家・研究者・翻訳家・編集者などの集まり）と、HMCをはじめとする本学の複数部局の協力のもと、協働的にアーカイヴの構築と発信を行い、学内と学外、作家と読者の垣根を超えた幅広い交流を実現させます。3ヶ月に1回のペースで作家へのインタビューを継続的に実施し、動画配信や刊行物による成果の発信を行うとともに、関連企画を実施します。

## 大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究

研究代表：阿部 賢一（人文社会系研究科）

研究分担者：塚本 昌則（人文社会系研究科）、阿部 公彦（人文社会系研究科）

王寺 賢太（人文社会系研究科）、大向 一輝（人文社会系研究科）

村上 克尚（総合文化研究科）、武田 将明（総合文化研究科）

河野 龍也（人文社会系研究科）、市川 紘子（HMC特任研究員）

学外研究協力者：安藤 宏（放送大学客員教授）、塚本 昌則（日仏会館）

本学出身の作家大江健三郎氏の原稿が2021年1月に人文社会系研究科に寄託されたことを受け、自筆原稿の基礎的研究・調査が開始されました。同氏についての文献学的研究は研究基盤整備も含めほとんど手つかずの状態にあり、2021年度のHMCにおける企画研究では1万8千枚に及ぶ自筆原稿のデジタル化、森昭夫氏の寄贈図書のデータベース化が進められました。

この研究プロジェクトでは企画研究での成果を踏まえ、

1. 日本文学・外国文学の研究者が集い、多様な観点から大江文学の読解を試みる。
2. 草稿研究などの文学研究と、デジタルアーカイブなど人文情報学の知見の融合を行い、

DXの時代における文学研究の可能性の探求も視野に入れる。

など、大江文学の多様な可能性の探求、文字資料のDX化における問題の検討といった学術研究面を進展させます。またオーラル資料を中心に扱う「現代作家アーカイブの構築と発信」プロジェクトとの連携も検討しています。5月14日には、ジョン・ネイスン名誉教授特別講演"Conveying the Author's Voice: Translating Style"を開催しました。

\*大江文庫ご利用の際は、事前に専用フォームより申請が必要です。詳細はHPをご覧ください。<https://oe.l.u-tokyo.ac.jp/>

## 開かれた人文学のための文化資源デジタルプラットフォーム

研究代表：中村 雄祐（人文社会系研究科）

研究分担者：大向 一輝（人文社会系研究科）、中村 覚（史料編纂所）

笠原 真理子（HMC助教）

学内研究協力者：真鍋 陸太郎（大学院工学系研究科）

学外研究協力者：平 諭一郎（東京藝術大学未来創造継承センター）

小川 潤（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系）

杉本 史子（東洋文庫）

研究補助者：関 慎太郎（人文社会系研究科）

計算の高速化、計算機のコモディティ化が同時に進行する今日では、人や物の状態・変化の測定、データ蓄積・計算・可視化が容易になり、デジタル技術を用いた多様な文化資源の研究や活用が進んでいます。しかし、特にネットワーク化されたデジタル技術は汎用技術であるがゆえに、ある程度までは各領域の目的に応じたカスタマイズが可能であるかわりに、蓄積されたデータや成果物の相互連携が新たな課題となっています。

この協働研究は、その課題に取り組むべく、学内・学外の研究者と幅広く連携し、文書や文物、遺跡、舞台装置などのデジタルデータを仮想的な3次元空間内に配置し、時空間や意味空間などを追求するためのオープンな文化資源デジタルプラットフォームの構築に向けた基礎研究を行います。具体的には「稲荷湯長屋プロジェクト」「東京大学生協中央食堂プロジェクト」を2本の柱に据えており、本年度は稲荷湯長屋と中央食堂の3Dスキャンにもとづく仮想空間の構築に取り組み、定期的にはミーティングを重ねています。人文情報学、文化資源学はもちろん、建築学、都市工学、まちおこし、VRなどいろんな視点からのアイデアが交錯し合い、いよいよ佳境に入りました。秋のお披露目に向けて、ただいま準備中です。



## フルインクルーシブな学校作りへの挑戦：福島県双葉町での実践

研究代表：大塚 類（教育学研究科）

研究分担者：梶谷 真司（総合文化研究科）、山名 淳（情報学環）

ライラ・カセム（総合文化研究科）、中里 晋三（HMC特任研究員）

東京電力福島第一原子力発電所が立地する福島県の大葉町では、数十名の児童生徒が帰町を目指しいわき市で避難生活を続けています。数年後の大葉町での学校建設を視野に、対象者も、コンセプトも、立地も、建物もすべてゼロからの学校案に着手したところです。

多様な子どもたちだけでなく、保護者、地域の人々、地域外の関係者といったすべての人々がコミットできるフルインクルーシブな学校作りに必要なのは何か。本協働研究では哲学と教育学の観点から、双葉南北小学校と双葉中学校をフィールドとして実践的に解明するとともに、得られた知見を実際の学校作りにも活かすことを目指します。

今期も東京大学ほかの大学生・大学院生の協力のもと、前期2023年12月の実施に続き、2024年8月と12月に双葉町小中学校の児童・生徒を対象に「学校のなかにお気に入りの場所をつくろう」、「学校のなかにもオリジナルサインをつくろう」をテーマにワークショップを実施しました。



# 公 募 研 究



## (A) 個人研究

連携部局所属教員を対象とする公募制度を通じて、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野に関して、国外から研究者を長期間招聘して行われる共同研究、または個人で行われる研究です。皆さまの研究にぜひご活用ください。

現在採択中の研究は以下の8件です。〈五十音順〉

(研究期間：2024年10月～2025年9月)

### 「日本近代文学の翻訳ネットワーク形成に関する研究」

阿部 賢一 (人文社会系研究科)

### 「イタリアと日本収蔵のルネサンス期文献をもとめて」

アマート ロレンツォ (人文社会系研究科)

### 「『生活の芸術』の系譜学—周作人、林語堂、三木清に焦点をあてて」

伊藤 徳也 (総合文化研究科)

### 「独日対照統語論研究：自由語順と主要部パラメータを中心に」

稲葉 治朗 (総合文化研究科)

### 「社会的相互作用としての音楽演奏における異文化間トポロジー」

工藤 和俊 (総合文化研究科)

### 「近世帝国としての大清帝国の国制の比較史的研究」

杉山 清彦 (総合文化研究科)

### 「物語フィクションへの接触が共感に及ぼす影響」

鈴木 敦命 (人文社会系研究科)

### 「市民社会を政治につなぐ」

福元 健太郎 (法学政治学研究科)



# オープンセミナー



公募研究、企画研究に参画しているフェローを中心に随時セミナーを開催しています。昨秋、第100回を迎えました！一般公開形式、参加無料。最新情報はHP、SNSでお知らせいたします。皆さまのご参加を心待ちにしております。とはかくも幅広く奥深い！過去に実施されたオープンセミナーのアーカイブ映像は、オープンヒューマニティーズ基金をご支援いただいた方に限定公開しております。



第111回 2024年5月15日  
**地域の多民族・多文化化と小学校**  
——都内X小学校アンケート調査の結果から  
報告者：  
高橋 史子（東京大学）  
コメンテーター：  
徳永 智子（筑波大学）



第112回 2024年6月13日  
**ロボット能におけるエンパシー日本での調査をふまえて**  
**Il nō dei robot #2: nuovi sguardi dal Giappone**  
講演者：  
マッテオ・カザーリ（ボローニャ大学）  
コメンテーター：  
吉田 寛（東京大学）  
通訳とコメント：  
土肥 秀行（東京大学）  
共催：東京大学南欧語南欧文学研究室  
(2025年4月より「イタリア語イタリア文学研究室」)



第113回 2024年6月13日  
**「大江健三郎『水死』を読む」**  
登壇者：  
阿部 賢一（東京大学）「大江健三郎『水死』の自筆原稿について」  
井上 隆史（白百合女子大学）「大江健三郎『水死』を読む」  
共催：科研費・基盤研究（C）「大江健三郎とミラン・クンデラ  
アーカイブと比較研究」（研究代表者：阿部 賢一）



第114回 2024年7月3日

**"Philosophy and theory from the standpoint of their manuscripts and archives: the AITIA project, a transcultural perspective"**  
(「哲学と理論を草稿・アーカイヴという視点から見たとき——AITIA プロジェクト、文化の越境を見すえて」)

講演者：

ベネデッタ・ザッカレロ (フランス国立科学研究センター)

コメンテーター：

明星 聖子 (成城大学)

司会：

塚本 昌則 (東京大学)



第115回 2024年7月14日

**上海 —ノスタルジアの表出と文化遺産の創出—**

コーディネーター：

松田 陽 (東京大学)

菅 豊 (東京大学)

発表者：

松田 陽：趣旨説明

鄭 士有 (復旦大学)

「都市における潜在的ノスタルジアの揺れ動き：『上海故事匯』の活動を中心とした考察」

徐 轅麗 (華東師範大学)

「景観化と浪漫化：都市空間におけるノスタルジアの醸成」

菅 豊：コメント

共催：現代民俗学会



第116回 2024年7月25日

**津島佑子の文学——未来へ向けて**

登壇者：

川村 湊 (法政大学)

中沢 けい (法政大学)

司会：

村上 克尚 (東京大学)

開催形式：ハイブリッド開催

会場：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階コラボレーションルーム 1



第117回 2024年8月8日

**大江健三郎のアルバイト小説を読む**

登壇者：

菊間 晴子（東京大学）

高橋 由貴（福島大学）

開催形式：ハイブリッド開催

会場：東京大学本郷キャンパス法文1号館115教室



第118回 2024年9月9日

**浮世絵とロマン主義**

**English Romanticism and Ukiyo-e:**

**A Cross-cultural Perspective on Art and Poetry**

登壇者：

Ian Haywood (University of Roehampton)

Nahoko Alvey (The University of Tokyo)

Saeko Yoshikawa (Kobe City University of Foreign Studies)

Kaz Oishi (The University of Tokyo)

Hiroki Iwamoto (Ibaraki University)

Masao Morishige (King's College, London)

コメンテーター：

Ayako Ono (Sinshu University)

開催形式：ハイブリッド開催

会場：The University of Tokyo, Komaba Campus, Building 18 4F, Collaboration Room 3



第119回 2024年9月20日

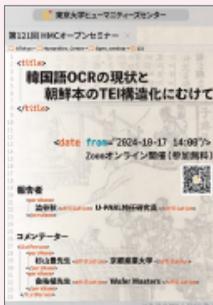
**『マハーバーラタ』インド北方系写本の研究**

報告者：

高橋 健二（東洋大学）



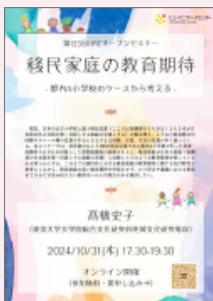
第120回 2024年9月27日  
**初期中世ヨーロッパで法書を編むこと**  
発表者：  
菊地 重仁（東京大学）



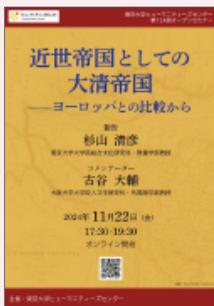
第121回 2024年10月17日  
**韓国語 OCR の現状と朝鮮本の TEI 構造化にむけて**  
発表者：  
澁谷秋（東京大学）  
コメンテーター：  
杉山 豊（京都産業大学）  
兪 祐植（Wafer Masters）



第122回 2024年10月22日  
**小林照子の印象分析論**  
講演：  
小林 照子（美容研究家・メイクアップアーティスト）  
司会・ディスカッサント：  
永井 久美子（東京大学）  
ディスカッサント：  
上田 竜平（京都大学）  
梶谷 真司（東京大学）



第123回 2024年10月31日  
**移民家庭の教育期待—都内 A 小学校のケースから考える—**  
登壇者：  
高橋 史子（東京大学）



第124回 2024年11月22日

## 近世帝国としての大清帝国——ヨーロッパとの比較から

報告者：

杉山 清彦（東京大学）

コメンテーター：

古谷 大輔（大阪大学）



第125回 2025年1月10日

## 大江健三郎の中期作品を読む—ポストコロナ的視座による「内在秩序」の考察

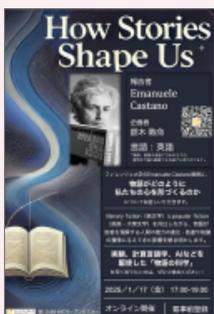
登壇者：

阿部 賢一（東京大学）

クリストファー・ラムズボトム-イシャウッド（東洋大学）

開催形式：ハイブリッド開催

会場：東京大学本郷キャンパス法文1号館115教室



第126回 2025年1月17日

## How Stories Shape Us

報告者：

Emanuele Castano（University of Florence, The Institute for Cognitive Sciences and Technologies, National Research Council (Italy)）

企画者：

Suzuki Atsunobu（The University of Tokyo）



第127回 2025年1月31日

## 共産主義圏ヨーロッパにおける日本文学の翻訳

Translation of Japanese Literature in Communist Europe

報告者：

阿部 賢一（東京大学）

コメンテーター：

イリナ・ホルカ（東京外国語大学）



第128回 2025年2月21日

### ドイツ語とはどんな言語か：対照言語研究の基礎

報告者：

稲葉 治朗（東京大学）



第129回 2025年2月28日

### 年齢と投票率

報告者：

福元 健太郎（東京大学）



第130回 2025年3月14日

### 西洋における図書館の歴史

—中世の修道院からラウレンツィアーナ図書館まで

登壇者：

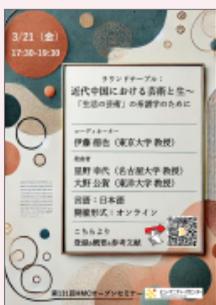
ロレンツォ・アマート（東京大学）

フランチェスカ・ガッローリ（ラウレンツィアーナ図書館）

エウジェニア・アントヌッチ（ラウレンツィアーナ図書館）

通訳：

渡辺 元裕（東京大学）



第131回 2025年3月21日

### ラウンドテーブル：

近代中国における芸術と生〜「生活の芸術」の系譜学のために

登壇者：

伊藤 徳也（東京大学）／コーディネーター

星野 幸代（名古屋大学）

大野 公賀（東洋大学）



第132回 2025年3月28日

まちおこしのためのVR:

稲荷湯長屋ヴァーチャル・アーカイブとコンパニオン・サイトのご紹介

報告者:

中村 雄祐 (東京大学)・稲荷湯長屋 VA&CS 構築チーム

ゲスト:

栗生 はるか (せんとうとまち)

司会:

関 慎太郎 (東京大学)



第133回 2025年5月14日

ジョン・ネイスン名誉教授特別講演

"CONVEYING THE AUTHOR'S VOICE: TRANSLATING STYLE"

講演者:

ジョン・ネイスン (カリフォルニア大学サンタバーバラ校)

進行:

阿部 賢一 (東京大学)

開催形式: ハイブリッド開催

会場: 東京大学本郷キャンパス法文2号館1番大教室



第134回 2025年5月22日

西洋における本の歴史 中身と形態

報告者:

フランチェスカ・ガッローリ (ラウレンツィアーナ図書館)

エウジェニア・アントヌッチ (ラウレンツィアーナ図書館)

司会:

ロレンツォ・アマート (東京大学)

通訳:

渡辺 元裕 (東京大学)



第135回 2025年6月6日

音楽の身体性と間身体性

報告者:

工藤 和俊 (東京大学)



第 136 回 2025 年 6 月 20 日

## 中央ユーラシアのなかの大清帝国

登壇者：

杉山 清彦（東京大学）

※特に記載のない回はHMC主催、オンライン開催。

※報告者等の所属はすべて開催当時のものです。

※開催決定時期の都合上、一部、実施日程と回数が前後しております、ご了承ください。

---

## リエゾンプロジェクト「吉村栄吉の時代と人々」

---

研 究 代 表：鈴木 将久（人文社会系研究科）

研 究 分 担 者：田口 一郎（総合文化研究科）、谷口洋（総合文化研究科）

齋藤 希史（HMCセンター長、人文社会系研究科）

祝 世潔（HMC特任研究員）

学外研究協力者：山崎 藍（青山学院大学）、渡邊登紀（日本大学）

宋 晗（フェリス女学院大学）、田中雄大（文教大学）

学内研究補助者：呉 雨璇（人文社会系研究科）、耿沛涵（人文社会系研究科）

薄 鋒（人文社会系研究科）、早川侑哉（人文社会系研究科）

増田 夏子（総合文化研究科）、安原大熙（人文社会系研究科）

葉 宇軒（人文社会系研究科）

学外研究補助者：笠井 健太郎（京都大学）、李曉玲（南開大学）

本プロジェクトは、吉村栄吉周辺の人々や学問を掘り出し、文学史の一隅を復元することを目指します。

吉村栄吉氏は1927年当時の東京帝国大学文学部支那哲文科に入り、中国古典文学を学びまし

た。卒業後1934年には中国文学研究会に参加し、雑誌に中国現代文学研究の文章を發表しました。同時に彼の祖父にあたる江戸時代の漢詩人吉村迂齋の漢詩と事績を調査整理し、戦後の1972年に『吉村迂齋詩文集』として出版しました。

吉村栄吉氏の歩みには、日本における中国文学研究が戦前から戦後にかけて向き合った、古典文学と現代文学の関係、中国文学と日本漢詩の関係など、学問の核心を構成する問題が如実に表れています。

このたび、HMCは吉村栄吉氏のご子息から貴重な史料の提供を受けられることになりました。この機会に、人文社会系研究科の鈴木将久教授を中心として現代文学関係の業績と中国文学研究室の歴史を整理する研究班と、総合文化研究科の田口一郎教授、谷口洋教授を中心として江戸漢詩とその周辺の問題を整理する研究班を作り、学内外の研究者とともに吉村栄吉が活動した時代と、彼にまつわる人々の動向を総合的に研究します。

研究の成果は、リエゾントークなど公開の活動、文学部150年史の一環として研究室史の公刊、吉村迂齋の漢詩訳注の出版などの形で社会に還元する予定です。

---

## キックオフイベント

---

日 程：2025年5月2日

登壇者：齋藤 希史、田口 一郎、李 曉玲、鈴木 将久、田中 雄大、祝 世潔、仲村 浩一

開催形式：ハイブリッド開催

会 場：東京大学本郷キャンパス法文2号館「文学部の扉」

このイベントは、2024年8月に発足したリエゾンプロジェクト「吉村栄吉の時代と人々」の第1回報告会として開催されました。本プロジェクトでは、「詩文班」と「近代班」という二つの研究班を設け、吉村栄吉の活動が、18世紀長崎の漢詩人・吉村迂齋（1749-1805）と、20世紀前半に中国文学研究会を主宰した竹内好（1900-1977）という二つの文脈に接続されることに着目し、それぞれの時代と関係者を掘り下げています。

# イベント NEWS

## 共同イベント

### 公開シンポジウム「Embodied Interaction in Music Performance」

日程：2025年6月29日

会場：東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE West レクチャーホール

講演者（登壇順）：鎌田 紗弓（東京文化財研究所）

Dr. Simone Tarsitani（英国ダラム大学音楽学部）

Prof. Martin Clayton（英国ダラム大学音楽学部）

討議者：工藤和俊（東京大学大学院総合文化研究科）

共催：科学研究費助成事業 学術変革領域研究（A）「顔身体デザイン：実践・実証・設計に基づく顔身体深化と昇華」、日本学術振興会学術知共創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」

協力：東京文化財研究所

### シンポジウム「再演再現——文化・芸術・歴史の再提示における問いと愉しみ」

日程：2025年5月24日

場所：東京藝術大学上野キャンパス美術学部第一講義室

講演者：渡辺 裕（音楽社会史・聴覚文化論 | 東京大学名誉教授）

立花 由美子（博物館学 | 静岡大学グローバル共創科学部専任講師）

本村 凌二（古代ローマ史 | 東京大学名誉教授）

討議者：渡辺 裕、立花 由美子、本村 凌二

モデレーター：平 諭一郎（東京藝術大学未来創造継承センター准教授）

ディスカッサント：笠原 真理子（東京大学ヒューマニティーズセンター助教）

小川 潤（東京大学人文社会系研究科助教）

主催：東京大学ヒューマニティーズセンター、東京藝術大学未来創造継承センター

共催：科研JP23K00189「時間を伴う芸術の再演における再現性とその差分」

## HMC チャンネル



### YouTube HMC チャンネル更新中!

2023年秋より、「人文学を語る!」シリーズをYouTubeで公開しています。人文学とは何か?という大きな問いについて、フェローの先生方がそれぞれのスタイルで語る貴重なインタビュー。大学の講義でもなかなか巡り会えないかもしれません。聞き手は齋藤機構長。学生や研究者にとって刺激になること請け合い。大学スタッフの皆さまにもぜひ見ていただきたいシリーズです。また、過去のオープンセミナーの動画は、オープンセミナー基金への寄付者の方に限定公開しております。HMCの先生方がどんなことを胸に研究しているか、覗いてみませんか?



## HMC Booklet シリーズ

HMCでは、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した「Humanities Center Booklet シリーズ」を刊行しています。東京大学学術機関リポジトリUtokyo Repositoryでも公開中。東京大学総合図書館、駒場図書館でもご覧いただけますので、ぜひお手にとってみてください。



新刊

Vol.24

「顔」は何を語るのか——過去から未来へ

永井久美子、水野博太、出口智之、石井悠加、藤田弥世、鈴木親彦、梶谷真司  
2024年12月9日発行 / ISSN : 2434-9852

ダウンロードは  
こちらから▶



## Staff 雑感

オープンヒューマニティーズ基金には、たくさんの方から応援メッセージをお寄せいただきスタッフ一同励みになっております。今年は、芸術の力とコラボレーションして人文科学研究の魅力を発信していくことがHMCのテーマです。自分の研究発表・出版の準備に追われながらも楽しんでやっていきたいと思えます。 (笠原 真理子)

2024年8月に発足したHMCリエゾンプロジェクト「吉村栄吉の時代と人々」を担当しています。例会の運営やプロジェクトの推進、成果のとりまとめを行いつつ、自分自身も研究を分担しています。研究と研究支援の両方に携わることは、挑戦でもあり、大きな楽しみでもあります。 (祝 世潔)

昨年4月に他大学のボランティアセンターに教員として着任しましたが、今期も特任研究員として関わらせていただきました。日々の足場が他大学に移るなかで東京大学のヒューマニティーズが培ってきたもの、これから切り開こうとしているものの厚みを強く感じた一年でした。 (中里 晋三)

昨年度まではリエゾンアシスタントとして活動してきましたが、無事に博士号を取得し、4月からは特任研究員として新たな肩書でHMCでの活動を継続できることとなりました。気持ちも新たに、研究と連携支援の両面に取り組んで参ります。 (関 慎太郎)

4月からHMCに加わりました。総合図書館に事務局があることに幸せを感じつつ、自分の研究と研究支援業務に励んでいます。今回のブックレットには、東大ハス園の観蓮会で撮影した蓮の花の写真を使わせていただきました。当日は盛況で、東大には見所が多いと実感しました。 (市川 紘子・編集)

### 東京大学ヒューマニティーズセンター (HMC)

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合図書館4階  
ヒューマニティーズセンター事務局



<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>



[https://x.com/HMC\\_UTokyo](https://x.com/HMC_UTokyo)



<https://www.facebook.com/HMC.UTokyo>



[https://www.instagram.com/hmc\\_utokyo/](https://www.instagram.com/hmc_utokyo/)